

平成29（2017）年度
自己点検・評価報告書
（抜 粋）

鎌倉女子大学 幼稚部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の園運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づいて、下記の教育目標をもち、教職員で協力して実現化を図る。 ～人・物・時を大切にし、感謝の気持ちをもって園生活を送る子どもを育てる～ ～遊びを通して豊かな体験ができるようにし、たくましく生きる子どもを育てる～ <目指す子どもの具体的な姿> ①人と親しみ、人とかかわることに喜びを感じる子ども ②物を大切にし、扱い方を自分で考え、自分で工夫する子ども ③様々なことに意欲的に挑戦し、一生懸命取り組む子ども ④生活のなかで、ありがとうの言葉が自然に出る子ども ⑤ルールを守り、けじめのある生活を送る子ども
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標」や「目指す子どもの姿」を全教職員に周知し、年間の指導計画のなかに取り入れ、日々の保育の反省のなかでも、意識して話題に取り上げるようにした。また、保護者にも園の目標を理解していただけるように説明をしたり、協力をお願いしたりしたことで、園全体で下記の子どもの育ちが見られるようになった。 ① 積極的に人とかかわろうとし、人へのやさしさをもちながら、人とのかかわりを楽しむ姿が、様々な場面で見られるようになった。 ② 遊びのなかで、「まだ、つかえるよ。」などの言葉が、多く出るようになり、セロハンテープなども、無駄なく使おうとするようになった。 ③ 行事や普段の活動のなかでも、意欲的に創造的に真剣に取り組む姿が多く見られるようになり、みどり祭の展示なども、多くの方から高い評価を得た。 ④ 様々な場面で、友だちや身近な大人の人に対して、自然に「ありがとう。」の言葉が出るようになったが、個人差が見られた。 ⑤ 全体的には、ルールを守り合う生活の仕方が身に付いていたが、家庭の環境もあり、個人差があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・④については、今後も、個人差が少なくなる指導を続けていく。 ・⑤については、今後とも家庭と協力し合って指導を繰り返していく。 ・今後も、保護者には、機会あるごとに、感謝する気持ちをもつことや、集団生活のなかでの「ルールを守り、けじめのある生活」を送ることの大切さについての話をし、保護者が幼稚部と同じ目標をもって子育てができるように働きかけていく。 ・幼稚部の教育活動に対しては、多くの方からの理解とたくさんの温かい協力を得たが、なかには、これまでのやり方を変更する時などには、不安や不満を抱く方もいたため、丁寧に説明をし、納得を得てから始めるようにしていく。

1-②	・園の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ①教材研究を行い、より良い教育環境をつくり、保育内容の充実を図る。 ②園内研究や研修などを通して、教職員の質を高める。 ③保護者との連携を深め、幼稚部教育への理解を得る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境をより良いものにしようという意識は、昨年度よりも高くなってきていたが、保育内容を充実させることに時間をかけることが、十分にはできなかった面があった。 ・園内研修では、昨年に引き続き、実際の保育場面の写真を使って保育を語りあったことで、教職員の保育を見る目がより深くなり、保育場面の説明の仕方も分かりやすくなった。 ・保護者とのかかわり方については、全教職員で同じ思いで丁寧に対応するという意識をもつようにしたことで、保護者からの信頼も得られた。しかし、子どものケガの時や、バス運行の説明の時などの言葉の使い方が不適切だった面があった。 ・行事後のアンケートからは、園教育に対して高い評価を得ることができた。 ・新しくなったことや以前と比べて少しでも変更がある場合などは、不安を感じる保護者がいるということを十分に考慮し、早期の対応が必要であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、2017年度と同じ教職員メンバーの他に、新たな専任教員1名と、未就園児親子クラス（たんぽぽクラス）に臨任教員が1名加わるため、チームワークを大切に、ゆとりをもって、より充実した教育を行っていけるようにしていく。 ・保護者や仲間に対しての言葉使いを、全教職員で意識していく雰囲気をつくっていき、気づいたことに対しては、互いに注意し合っていけるようにする。 ・行事後のアンケートについては、アンケートを出していない保護者もいるため、そのような保護者の思いを知るためには、いろいろな場面で意識してかかわり、気軽に話していただけるようにしていく。 ・どんなことも気軽に話していただけるよう、傾聴の態度をとり、保護者との関係づくりを、全教職員で丁寧に行っていくようにする。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初の職員会議で教育課程について話し合い、学年ごとに指導計画を作成することにより、教職員間で共有できるようにする。 3学年を通しての教育課程が、幼児の実態に即しているか、学期ごとに全教職員で検証し、次学期に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程については、教職員間で共有し、学期ごとに見直しを行ったことで、修正しながら次学期に生かしていくことができた。 学期初めや行事の時などは、教育課程に基づき、特に綿密に保育活動の検討を行ったことで、幼児の実態に即したより充実した内容の保育を実施することができた。 教育課程における保育の目標として、生活習慣や技能面での個人差を意識して話し合うことを掲げたことで、成果は見られたが、家庭との関連もあり、十分にはできなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も、教育課程のなかに、生活習慣や技能面に関する項目を入れ、指導の強化を図るとともに、家庭との連携も密にして、成果をあげていくようにする。

2-②	・年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導計画や週案は学年間で話し合っ提出するようにし、全教職員がその内容を把握し、連携しあって保育にあたるようにする。 ・週案作成にあたっては、学年ごとに前週の金曜日に反省を行い、次週に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週案作成にあたっては、3学年が、それぞれに他学年の様子を把握しながら作成していたため、3学年の発達の理解もスムーズとなり、各学年の幼児に即した保育活動を実施していくことができた。 ・週案の打ち合わせを定期的に行ったことで、学年の担任同士が、同じ方向性を持ち、連携をしあって保育にあたることができた。しかし、次長が年長組担任として保育を行っていたことで、他のクラスの援助や指導が十分にできない面があったため、経験の浅い保育者の保育環境準備などは、十分ではないところがあった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育環境準備により時間をかけるために、次年度は、園内研修のなかでも、保育環境についての話し合いをし、特に、経験の浅い保育者に対しては、より良い保育環境の在り方についての意識を高めていくよう指導する。

2-③	・教育週数、1日の教育時間が適切に確保されているか。
取組目標	・文部科学省の基準を守った上で、幼児の実態を考慮した無理のない教育週数、教育時間のなかで保育を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入園初期や長期休業後の保育時間を、幼児に無理のない保育時間に設定し、少しずつ通常の保育時間にしていったことで、幼児の集団生活への適応がスムーズに行われた。 ・週の半ばの水曜日の午前保育は、集団生活の疲れを癒す上でも幼児には必要であった。 ・これらのことを考慮した上で、1年間を通しての教育週数や教育時間は十分に達成することができた。
今後の課題 と改善策	・今後も無理のない範囲で、教育週数、教育時間を確保する。

3. 指導

3-①	・ 幼稚園教育要領の内容や設置者が定める基準（学則）にのっとり、幼児の発達に即した指導が適切に行われているか。
取組目標	・ 幼稚園教育要領を全教職員で共通理解し、幼児の実態に即した指導を丁寧に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週の打ち合わせや、日々の保育後の全体ミーティングのなかで、幼稚園教育要領に基づいた各幼児の姿について具体的に出し合ったことで、幼児の姿を共通に捉えてかかわっていくことができた。 ・ 園内研修においても、幼児の発達の姿について理解を深め合うことができた。
今後の課題 と改善策	・ 2018年度より、新たな幼稚園教育要領が実施されることとなるため、研修を全教職員で行い、理解を深めて、幼稚部の教育に生かしていくようにする。

3-②	・日々の保育において遊具・用具の活用が図られているか。
取組目標	・書籍研究や研修などを通して、全教職員で活用の仕方を学ぶ機会をつくり、保育のなかに生かしていく。
取組内容 と成果	・現在ある遊具や用具を再点検し、全員で活用の仕方を話題にし合うようにしたことで、活用を図ることができた。
今後の課題 と改善策	・園庭の遊具を片づけしやすいようにしたり、表示をわかりやすくしたりして、子どもたちにとって、園庭がより使いやすいものとなるようにする。

3-③	・園行事が適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	・ケガや事故のないように、幼児の動きに十分に配慮した内容を園行事の計画のなかに盛り込んで行事を行う。 ・保護者も参加する園行事の際は、地震等の災害を想定した際の保護者の動きも盛り込んで実施する。
取組内容 と成果	・行事においては、幼児や保護者ともに大きなケガもなく、事故が起きることもなく、無事に終えることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も気をゆるめることなく、園行事の実施にあたっていく。

3-④	・チーム保育などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	・担任とフリーの教員が連携を取り合って保育にあたる。
取組内容 と成果	・日々の保育前に、担任とフリーの教員の動きを確認し合い、保育後には、反省をして翌日の動きに活かしていくようにしたことで、連携をとりながら保育を進めていくことができた。
今後の課題 と改善策	・フリーの教員の動きが、園全体のなかでより活かされていくよう、必要に応じて改善策を話し合い、即生かしていくような体制をとっていく。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校 3 部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など園・学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・中・高等部との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校ならではの良さと特色を生かした幼稚部運営を行う。 ・他部との連携をより丁寧にとり、様々な取組が生きたものとなるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部、中・高等部との交流が、互いに有意義なものとなるよう、内容を吟味し、打ち合わせも丁寧に行ったことで、より良い交流をすることができた。 ・初等部との合同研修会も、実際の教育の様子を伝え合う内容だったため、互いの教育内容を具体的に知っていくのに、大変有意義なものとなった。 ・初等部への内部進学率を上げていくために、幼稚部でできることは、更に工夫し、初等部にも、保護者が初等部に何を望んでいるのかを伝えていくようにしたり、見学を勧めたりしたが、十分な結果にはつながらなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部への内部進学者が増えていくよう、次年度も初等部と細やかに連携を取りながら、対策を講じていく。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の教員や学生の力を可能な限り活用し、幼稚部の教育がより充実したものとなるようにする。 ・園内研修の際には、大学の教員も招集し、指導を仰ぐ。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や普段の活動のなかで、多くの学生ボランティアの協力を得ることができ、幼児、保護者にも大変好評であった。 ・未就園児親子クラスでのボランティアを経験してきた学生は、幼稚部に勤務してからも幼児とのかかわりがスムーズになる面があるため、今後も大切に継続していく。 ・園内研修には、大学の教員との日程調整に苦慮した。 ・大学教員による特別講演会は、保護者にも大変好評であった。今後も継続していけると良い。 ・児童学科の教員の依頼で、保育者養成校向けのビデオ制作に協力をした。幼稚部の子どもたちの遊びの様子が撮影され、完成後、3月には、保護者にも見ていただくことができた。大学の教員たちにも、保護者の方にも大変好評だった。 ・児童学科の教員と連携し、保育者養成校向けのビデオを作成できたことは、幼稚部にとっても良い経験となり、客観的に自分たちの保育をとらえる貴重な機会ともなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、大学の教員や学生と幼児との触れ合いの機会を意識してつくる。 ・大学関係の催し等には、次年度も積極的に参加を呼びかけていく。 ・園内研修に、大学の教員にとの日程調整に苦慮した。

4. 保健管理

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき日常の保健管理を適切に行う。 ・保健センターと連携を取り合い、疾病予防、健康診断を適切に行う。 ・家庭とも連携をとりながら、日常の健康観察を細かに行う。 ・健康を考えた食育を行う。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・疾病予防のための取組、健康診断を適切に実施する。
取組内容 と成果	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターと連携をとりながら、幼稚部の保健担当が中心になって適切に疾病予防、健康診断を実施することができた。 ・インフルエンザ等の感染症が出たときは、保健センターの指示を仰ぎながら、家庭とも連携をとり、適切に対応して感染症の拡大を防ぐことができた。 ・調理活動では、その時期にふさわしい野菜を多く取り入れたり、野菜の栄養についての話をしたりするなどして、無理のない形で食育を行い、保護者からも好評を得た。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に則り、保健活動を行い、健康診断・環境整備・保健指導等を円滑に行うことができた。 ・毎月「ほけんだより」を発行し、家庭での健康管理について啓蒙することができた。 ・手指消毒用アルコールを園内に設置し、餅つき行事や調理活動には感染性胃腸炎予防にも効果的な手指消毒アルコールジェルを活用した。 ・冬季にはうがい・手洗いをこまめに指導することにより、感染症の蔓延防止に努めることができた。 ・年間を通じて、室内の換気をこまめに行うよう指導し、感染症の蔓延防止に努めることができた。 ・園でのケガについて家庭でも引き続き注意観察をしていただくために、注意事項をまとめた手紙を作成し、活用することができた。
今後の課題 と改善策	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーを持っている子や、生まれながらの病気を持っている子に対する対応の仕方については、今後も引き続き、保護者・担任・保健センター職員が揃った場に部長（園長）も同席して、対応を共有できるようにする。また、その内容については、他の教職員にも報告し、幼稚部全体で同じ対応ができるようにしていく。

	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none">・保健センターと保健担当者間の連絡が密に取れており、円滑な保健活動が行われているため、今後も継続できるように努めていく。・健康診断をより円滑に実施するために、職員用マニュアルを作成し活用する。
--	--

5. 安全管理

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・園事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・園舎や通園路等の安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具の安全点検を日々行い、安全に十分留意した保育を行う。 ・危険な状況が起きた場合を想定して保育計画を作り、教職員の動きを訓練する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を守るための計画を、再度見直して全教職員が確認できるようにしたり、ヒヤリハットマップの点検をしたりしたことで、教職員の安全対応能力と意識が更に高まっていった。 ・日々の保育の振り返りのなかで、安全管理についても反省をし、反省点があれば、翌日に生かすことを継続したことで、大きなケガや事故もなく、幼稚部の運営を行うことができた。 ・朝の準備のなかで、安全を確認してから保育に入るようにしたため、ケガや事故の予防も行うことができた。 ・未就園児親子クラスの活動に園児が参加していた際に、ケガが起きたのは、参加させる場合の対応についての教職員間の対応が不十分であったことが原因であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子クラス担当の教職員たちには、ケガの予防についての意識を、更に強くもってもらよう指導していく。 ・次年度は、新たな教職員も入ってくるため、再度、全教職員で確認し合い、共通の認識を持って安全管理ができるようにしていく。

5-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備し、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・引き取り訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部独自の避難訓練を10回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。 ・保護者対象の行事として引取訓練を2回、救命救急講座を1回行った。保護者の防災意識を高め、AEDの使用法や心肺蘇生法等を学ぶことができた。 ・それぞれの訓練において、園児・保護者・教職員が、安全確保のための基本行動を再確認することができた。 ・「塩おにぎりの日（昼食時に塩おにぎりだけを園児が食べ、食べ物の大切さを学ぶ催し。）」や防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、園児の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、園児や保護者を含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、初等部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。

6. 組織運営

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が互いを思いやりあいながら、楽しく意欲的に勤務できるように、部長（園長）は、次長と共に率先して温かい職場の環境をつくる。 ・教職員が同じ思いで幼稚部の教育に情熱を傾けられるように、部長（園長）は、リーダーシップを発揮して幼稚部の運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・部長（園長）、次長と共に、温かい職場の雰囲気作りを目指し、環境をつくっていったことで、意欲的に自信をもって仕事をする教職員が多くなった。1年目、2年目の教職員も、保育者としての成長が著しく、保護者からも信頼されるようになった。 ・保護者からも、様々な行事ごとに子どもが成長したと感謝されていたため、教職員たちはやりがいを感じる事ができたようである。次年度は、退職者もなく、大変良かったと感じている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、新たに2名の教職員が加わるため、全教職員で温かく迎え入れ、教職員のチームワークがスムーズにとれるように、部長（園長）は、次長の協力を得ながらリーダーシップを発揮していきたい。

6-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、自分に与えられた園務について責任を持って行う。 ・他の人に迷惑をかけないように、期日を守りあう。 ・報告、連絡、相談を守り合って、園務がスムーズに遂行されるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の園務の引き継ぎが適切にできていたため、滞りなく次の担当者が業務を進めることができた。 ・教職員同士が互いに声を掛け合い、助け合いながら園務を遂行したことで、園運営も、スムーズに行うことができたが、十分ではない教職員もいたため、今後も指導が必要であると感じている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、新人も入ってくるため、園務の業務や保育に支障をきたすことのないよう、うまく時間配分ができるように仕事の進め方のアドバイスをし、スムーズに遂行していけるようにする。 ・十分にできない教職員に対しては、その都度、丁寧に指導をしていきたい。

6-③	・職員会議等が園運営において有効に機能しているか。
取組目標	・学期初めや、大きな行事前、必要と思われる時には、必ず職員会議を行い、教職員が同じ思いを持って取り組んでいけるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が共通に理解し、同じ思いで進んでいけるように、何かを始める前には、その都度、教職員の動きを再確認するようにしていったため、行事等においても、スムーズな運営をすることができた。 ・教職員共通の場所の使い方や動きなどを、全教職員で守り合い、気持ちよく生活を行おうとする雰囲気ができていた。
今後の課題 と改善策	・今後も職員会議を有効に機能させ、全教職員が思いを同じにして園運営にあたっていけるようにする。

6-④	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 文書や情報が外部に漏れないよう適切に管理し、教職員にも必要に応じて、その都度、適切に周知する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> これまでも教職員には、十分に周知してきたため、問題が起きることはなかった。また、退職する教職員にも適切に対応してきた。 文書や情報管理は、責任を持って部長（園長）と次長が行い、問題はなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、適切に対応していく。

7. 研修（資質向上の取組）

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育研究を全教員が行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研究を定期的に行い、全教職員の保育向上を目指す。 ・ 園内研究の在り方を工夫し、より有意義な内容となるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員で同じ保育場面を見合い、テーマに基づいて撮り合った写真をもとに話し合いをすることができたため、保育の見方、方法を共通に確認し合い、深め合うことができた。 ・ 公開保育や外部の研修に積極的に参加し、報告会も随時行うようにしたことで、保育者の子ども理解や保育技術をより高めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の現場においては、具体的に保育環境をどのようにつくっていくかが問われてくる。そこで、次年度は、園内研修のテーマを「保育環境を見直すこと」とし、教材研究をし合ったり、互いの保育室を見合ったりして、保育環境をより良いものとする力を全教職員で身に付けられるようにしていく。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修・園外研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に園内研修・園外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教職員が研修に参加できる体制を整える。 ・幼児の夏休み、冬休みの期間は、研修内容も多いため、全教職員で話し合いながら、より多くの内容に参加できるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が自分の目標や課題をもって研修に参加したことで、研修内容を、その後の保育に生かす姿が多く見られた。 ・研修の報告をし合う機会を必ず設けたことで、他の研修についても互いに学び合うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、全教職員が研修会に必ず参加する体制をつくり、各自が学んできたことを互いに報告し合う機会をつくるようにして、より多くの学びを全教職員が共有できるようにしていく。

7-③	<ul style="list-style-type: none"> ・園長等の管理職が定期的に保育観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の状況を常に把握し、必要に応じてその都度指導をしたり、保育反省に加わって助言をしたりして、保育内容がより良いものとなるようにする。 ・指導が不適切な教員に対しては、その教員の心身の状態を把握するとともに、適宜指導の機会を設けるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の際は、できるだけ保育の具体的な場面をもとに指導するようにしたため、教員も理解しやすかったようで、良い方向に変化させていくことができた。 ・教員の良いところ、得意なところを積極的に発揮してもらい、そのことを、他の教職員の前でも意識して褒めるようにしたところ、自信をもって仕事をする教員の姿が多く見られるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教員の個性や思いは、十分に受け止めながら、組織として全教職員が一定以上の力を発揮できるよう、必要に応じた指導を行っていく。

8. 保護者・地域社会等との連携

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が園運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・保育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく無理なく園運営に協力できる体制をつくり、保護者の協力を得る。 ・保育ボランティアは、未就園児親子クラスや幼稚部の行事・活動に積極的に入っていただけるよう、大学の教員とも連携をとったり、学生にも直接勧めていったりする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の行事や活動にも気軽に参加し、手伝えるような内容を計画したため、多くの保護者の参加があり、やりがいも感じてもらうことができた。卒園してからも引き続き、応援に来てくれる姿が多くなってきている。 ・未就園児親子クラスの学生ボランティアや幼稚部の保育ボランティアには、学生に無理のない形で協力してもらえよう、大学の教員と連携を取りあったため、有意義な活動ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園後も手伝いを継続していただける保護者が増えてきているため、気軽に来園できるような雰囲気や在園児の保護者と共につくっていき、そのようなつながりを今後も大切にしていく。 ・大学の教員と連携を取り合いながら、学生ボランティアの参加できる場面や内容を、意識してつくっていく。

8-②	・園公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園公開に対しては、必要に応じて行い、幼稚部教育への理解を得るようにする。 ・在園児の保護者にも、希望があれば、いつでも園見学ができることを口コミで広めてもらう。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開行事の際は、より多くの方に知らせるようにしたところ、前年度よりも園見学者数が増える結果となった。 ・入園案内の資料請求者には、必ず園見学を勧めるようにしたため、より多くの人に幼稚部教育の良さを伝えることができた。 ・在園児の保護者にも、積極的に幼稚部を勧めていただき、より多くの人に見学していただくことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もこれまで同様、気軽に園見学ができる体制を全教職員でとっていき、見学の際は、温かく迎える雰囲気をつくっていく。

8-③	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の園への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・教育相談体制を整備し、保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや面談、懇談等を、必要に応じて実施し、保護者の思いを適切に把握して対応する。 ・保護者の要望や意見には真摯に対応し、納得が得られるまで丁寧に向き合う。 ・改善できることがあれば、即対応したり、次の機会に生かしたりする姿勢を見せていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容に関して、改善できることがあれば、即応じる姿勢で対応してきたため、園運営への理解度も深まり、より協力を得ることができた。 ・全体懇談会やクラス懇談会の機会を利用し、必要なことは早めに知らせ、疑問や質問には丁寧に答えるようにしてきたため、大きな混乱や問題はなく、園運営を進めることができた。一部、早めの対応が不十分だったところがあり、保護者に不安や不満を抱かせてしまったところがあった。 ・行事等では、必ずアンケートをとり、質問や疑問があれば、即答え、改善できることは改善するようにしたことで、保護者も園に対して協力的な気持ちで、アンケートに回答するようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、保護者に不安や不満を抱かせてしまったところがあった点については、次年度は、どの保護者も満足できるよう、努力をしていく。すべての保護者の理解を得るには時間がかかることもあるため、繰り返し、個別に丁寧な対応をしていくことを心がけていく。 ・何か新しいことを始める際や、物事を変更したりする際には、そのことをする意義、良さなどについて、より丁寧な説明を行うことに十分留意し、保護者の要望等にも耳を傾け、適切に対応していく。 ・就労する母親が増えてきたことで、懇談会への出席率が低くなってきているため、対応策として、毎月、担任がホームページのブログを通して、具体的に子どもの様子を知らせていく。

8-④	<ul style="list-style-type: none"> 園便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 「幼稚部だより」「学年だより」「クラスだより」「園長からのお知らせ」等、必要に応じて発行し、保護者の理解をその都度得られるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて各種の便りを発行してきたことで、保護者も安心してわが子の成長を見守ることができていたようである。 急を要するときには、メール配信も行うなどして、不安なく的確に情報を得られるようにしたため、保護者も安心していた。 「幼稚部だよりやクラスだよりを楽しみに読んでいる」との手紙を、多くの保護者からいただくことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、保護者が不安にならないよう、早めに便りを出したり、メール配信をしたりする。 就労する母親が増えてきたことで、便りを、ゆっくり読んでももらえない状況も出てきているため、読んでもらいやすい紙面にしたり、子どもの様子をホームページのブログで知らせたりするなど、次年度は、対応策を考えていく。

8-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の実情や要望による預かり保育が適切に実施されているか。 ・園や教職員による受入れ体制が十分に整っているか。 ・預かり保育の実施について、幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の場が、保護者にとっても、幼児にとっても安心して過ごせる場となるようにする。 ・預かり保育が、幼児にとって無理がないように、保護者と連携しながら進めていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方6時までの預かり保育や、長期休業中の預かり保育は、就労している母親に大変好評で、さらに人数も増えてきている。 ・預かり保育の内容をより充実させたことで、預かり保育を多く利用している子どもたちも預かり保育を楽しみにしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、就労する母親がますます増えていくことが予想されるため、預かり保育の時間や預かり方、教職員の手配等も、臨機応変に対応し、保護者が預けやすいように配慮していきたい。 ・料金の支払い方が、次年度は、引き落としとなるため、混乱のないように進めていきたい。

8-⑥	・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動が適切に実施されているか。
取組目標	・地域の方に向けた子育て支援活動を、可能な限り行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開行事や見学の際に、子育ての相談を受け、また定期的な相談にも対応することで支援活動を行った。 ・「幼稚部へようこそその会」への参加者が増えてきているため、このなかでも、可能な範囲で子育て相談などの支援活動ができた。 ・子育てで悩みを抱えている保護者に対しては、いつでも相談を受けつけるようにしたことで、保護者の悩みを軽減する支援ができた。 ・保護者に向けての支援活動は、概ね達成できているが、地域の方に向けた子育て支援活動は、やや未達成と感じている。
今後の課題 と改善策	・入園希望者への相談活動及び、在園児保護者の子育てに関する悩みや相談を、子育て支援活動の一つとしてとらえ、内容を充実させていく。

8-⑦	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域に出かけたり、地域の方との交流を進めたりして、幼児が豊かな体験をできるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の神社には、夏祭りのお神輿づくりや七五三のお参りなどでお世話になり、幼児たちも、貴重な体験をすることができた。 ・遠足による、鎌倉の名所歩きは、幼児にとって貴重な体験となり、保護者にも喜ばれた。 ・書道やわらべ歌などの指導に、外部よりボランティアの講師を招き、貴重な体験をすることができ、子どもたちにも保護者にも好評だった。 ・地域の施設に出かけて、そこでの交流を深める機会を十分にとれなかった点を、やや未達成と感じている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の近隣の施設にも、多くの面白い体験ができる所があるため、積極的に保育のなかで出かけるようにしていくとともに、多くの人と触れ合う場面も意識してつくっていく。 ・今後は、地域の施設にも積極的に出かける機会をつくれるように、保育計画のなかに盛り込んで、実施できるようにしていく。 ・保護者のなかには、素晴らしい力を持っている方が、たくさんいるため、その力を発揮していただく機会を積極的につくっていききたい。 ・次年度は、「みらいふる鎌倉」の高齢者の方たちとの交流の機会を計画しているため、子どもたちにとってより有意義な交流の機会となるようにしていきたい。

8-⑧	・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	・実習生の受け入れは、積極的に行い、教職員の協力体制のもと、意義ある実習を行う。
取組内容 と成果	・希望をした学生はすべて受け入れ、どの学生も最後まで実習を終えられるよう支えることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も、可能な限り実習生を受け入れていき、意義ある実習ができるように協力していく。

9. 入試・広報活動（情報提供）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育活動についての説明会を実施したり、入園案内を配付したり、ホームページを活用するなど、園に関する様々な情報が、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに園長名、園の所在地、連絡先、学級数、幼児数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・幼児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園児募集に向けて、園の教育活動の実際や情報を、多様な媒体を用いて分かりやすく伝えていく。 ・ホームページの効力を最大限に生かしていくために、内容を工夫し、タイムリーに更新していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容を工夫し、タイムリーに更新してきたことで、アクセス数も増え、幼稚部教育を多くの方に周知することができ、入園者増にもつながった。 ・ホームページでの資料請求者には、積極的に見学を勧めたところ、遠くの地域からの入園者を増にもつなげることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで幼稚部の様子を知ろうとする方は、ますます増えてきているため、これまで以上にホームページの内容を、読みやすく、より充実させていくことに力を注いでいく。

9-②	・幼稚部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の募集業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、①入園案内制作、②見学会「幼稚部へようこそその会」・公開行事・説明会等の運営支援、③広報媒体等への掲載交渉、④ホームページ運営委託業者に対する幼稚部広報支援等を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入園案内制作支援やパンフレット制作会社へのアドバイスなど、幼稚部担当教職員とのパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を行った。 ・入園志願者などからの電話での問い合わせに関する対応支援活動を実施した。また、幼稚部にて開催される、見学会・公開行事・説明会等における募集活動の支援を行った。 ・幼稚園入園ガイドブックへの掲載交渉、掲載する記事の作成及びアンケート等に対する回答などを行った。 ・2017年4月に岩瀬キャンパス全体にかかわるホームページのリニューアルを行い、幼稚部から大学院までを擁する一貫教育校であることを強く閲覧者に印象付けた。本年は画面デザインの統一性を向上させた。同時に幼稚部における行事、募集記事などの露出頻度の増進を図り、閲覧者数の加増に貢献した。 ・初等・中等接続教育推進プロジェクト会議を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の募集定員の充足維持に向け、幼稚部教職員の募集活動の支援充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、保育活動を効果的に伝える行事運営の支援などを行い、志願者数の維持と更なる向上を図る。 ・幼稚部・初等部間の進学接続支援の増強を図る。

10. 教育環境整備

10-①	・施設・設備の整備・活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をし、必要に応じて修理を行って安全に使いこなしていく。 ・施設・設備の効果的な使い方を、全教職員で書籍や研修から学び合う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をしていったことで、修理も早めに行うことができ、安全な使い方をすることができた。 ・園庭の遊具を増やし、整備したことで、子どもたちの園庭での遊びがより豊かになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、園内研修においても保育環境を見直しの対象とし、施設・設備の効果的な使い方や安全な使い方をしていくために、さらに全教職員で研修を深めていく。

10-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する。 ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で園児が幼稚園生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・ひまわり館のフローリングの改修工事を行った。 ・教職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容などが実状に合わせたものになるよう見直しを図る。 ・創立80周年記念事業として岩瀬キャンパス再整備計画が構想されているが、その内容を踏まえて、設備整備計画を見直し、実行する。

10-③	・遊具・用具・図書等の整備や園教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具・用具・図書等の整備を全教職員で定期的に行う。 ・ホームページや掲示板を効果的に使い、園教育をより多くの人に知らせていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具に関しては、帰りの打ち合わせ時等に話題にし、必要があれば整備をするなどした結果、修理をしながら大切に使うことができた。 ・図書に関しては、保護者のボランティアにも手伝ってもらえたことで、修理をしたり、整理整頓をしたりしながら使うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に、整備をしたり、整理整頓をしたりして、適切に使っていきけるようにしていく。 ・次年度は、パソコンも新しくなるため、より有効に使っていきけるようにしたい。

11. 事務支援体制

11-①	・ 幼稚部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口での来校者対応や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 各自治体による「私立幼稚園就園奨励費補助金」の申請交付事務に関して、自治体により処理が異なり煩雑さは否めないが、経理部と協力し迅速かつ正確に処理を行うことができた。 ・ 業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化する目的で預り金についての新たな帳票を初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。また内部監査を通じて、預り金取扱い内規遵守の徹底や教材費等に関する業務の改善を行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 教材費等預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図る。預かり保育代金の徴収については、保護者の銀行口座からの引落しで行うべく調整を行っていく。 ・ 通園バスの運行については、登・降園や遠足の送迎、大船キャンパス等への移動手段として利用の機会を増やしているが、更なるバスの有効活用を行っていく。

12. 自己点検・評価

12-①	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が年に1回以上定期的に行われているか。 全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに自己評価を行い、各自が反省点を出し合って次学期に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 学期の初めや学期末に、自己評価についての話し合いをし、日常の保育に生かしていくようにしたことで、各教職員が、それぞれに意欲をもって仕事を進めていく姿が見られたが、個人差があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ意欲的に業務にあたっているが、個人差があることが課題である。 今後も、全教職員が評価に関与し、反省点は、素直に反省して、どの教職員もより質の高い保育実践ができるようにしていく。

12-②	・自己評価の結果が具体的な園運営の改善に活用されているか。
取組目標	・自己評価の結果を教職員にも周知し、反省点については話し合いをして次年度に生かしていく。
取組内容 と成果	・園務の担当ごとに、自己評価の結果をもとに反省を行い、次年度に向けての計画を立てるようにしたため、改善に向けて活用することができたが、より改善が必要な教職員もいた。
今後の課題 と改善策	・今後も自己評価の結果を謙虚に受け止め、見直しが必要な部分がある時は、必要に応じて個人指導も行いながら、園運営の改善に努めていく。

